

日々新聞

第廿二号

信後三代  
守後三聖

信後三  
政七

大及房下難波村鉄眼寺の  
 老僕の妻ハ三十年の春をたつみ  
 寺の小僧と文りて夫の子を産もよ度薄きと  
 事よせて夫婦離別の相談とよひ後小僧を  
 還俗させ二世と執りし中より入力車夫の  
 移りてめぐる月日二月七日のよ小僧のるま  
 老僕來り有無を云及魚刺庵丁を出し  
 女をそ入突がる産してさつ折る彼  
 小僧外より歸り庵丁を取上げ咄末  
 を聞けを老僕多小兒顔そ  
 見ふ來ちを母ケまがひあ  
 見せぬ也あふ及びいと云ふ  
 つけかゝ人サ寄り三長の  
 説諭かゝく小場ハ老人の  
 眼みを  
 云ふ小鬼の  
 一条そつとく妻ハ塔とし

必信信

